

最新技術を活用した教育の推進

～すべての子どもたちに質の高い教育を提供するために～

平成31年3月11日
内閣府規制改革推進室

規制改革推進に関する第4次答申(抄)
(平成30年11月19日 規制改革推進会議)

(1) オンラインによる遠隔教育の本格的推進

【平成30年度措置】

< 実施事項 >

プログラミング、英会話など広く様々の分野において質の高い教育を実現するため、指導体制の充実を図りつつ、5年以内のできるだけ早期に遠隔教育を希望する全ての小・中・高等学校で活用できるように包括的な措置を講じる。そのため、文部科学省において、中学校における遠隔教育の弾力的実施などについて、教育再生実行会議の議論を踏まえて検討し、工程表を含む中間取りまとめを行い、今年度末までに規制改革推進会議に報告する。

教育のICT化に向けた取組

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
○規制改革推進に関する第4次答申(2018年11月19日)		○小学校におけるプログラミング教育が導入	○中学校におけるプログラミングに関する教育内容が倍増	

教育のICT化に向けた環境整備5か年計画(2018年度～2022年度)

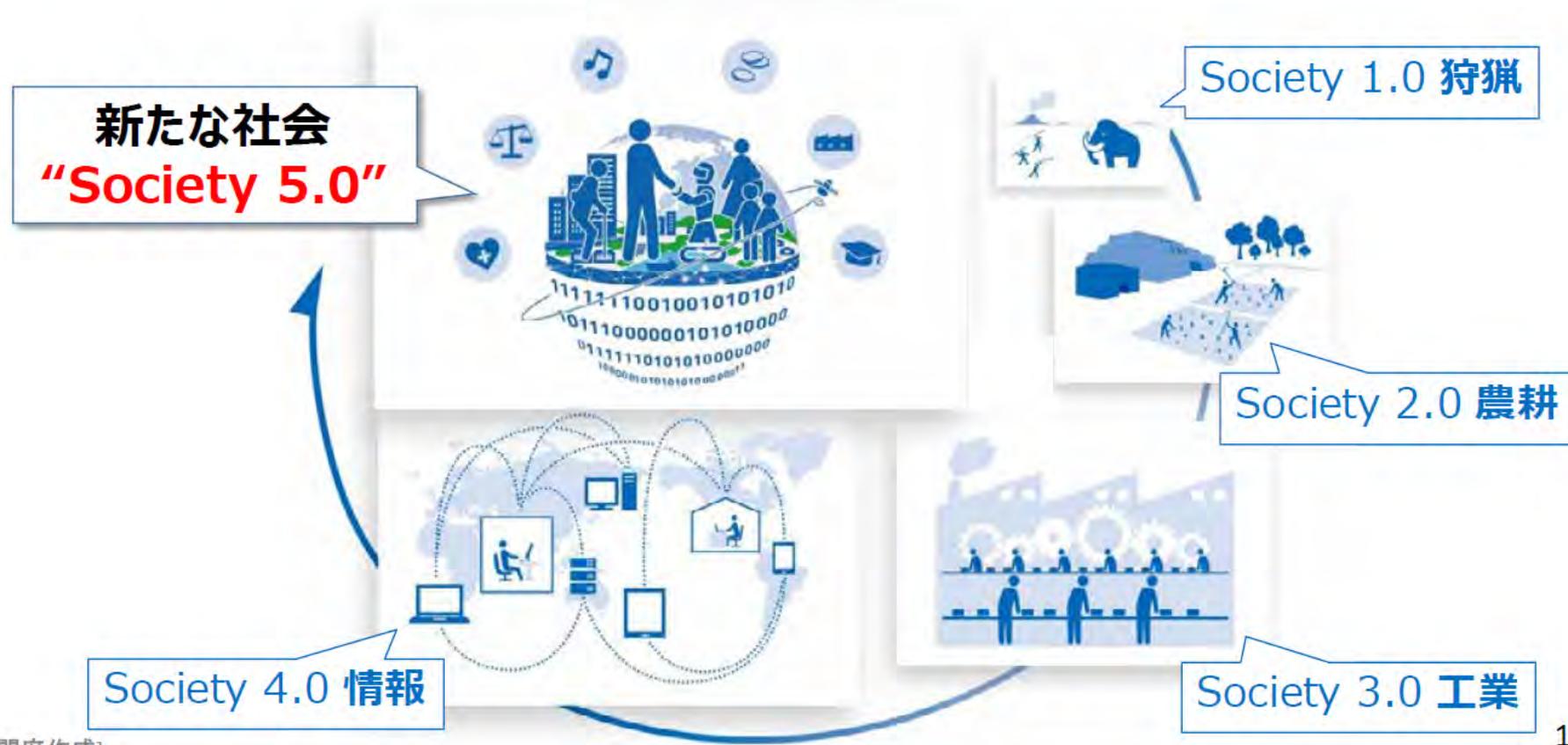
2018～2022年度まで単年度1,805億円の地方財政措置を講じることとされている。

< 目標としている水準 >

- 学習者用コンピュータ3クラスに1クラス分程度整備
- 指導者用コンピュータ授業を担当する教師1人1台
- 大型提示装置・実物投影機100%整備
- 超高速インターネット及び無線LAN 100%整備
- 統合型校務支援システム100%整備
- ICT支援員4校に1人配置

Society 5.0とは

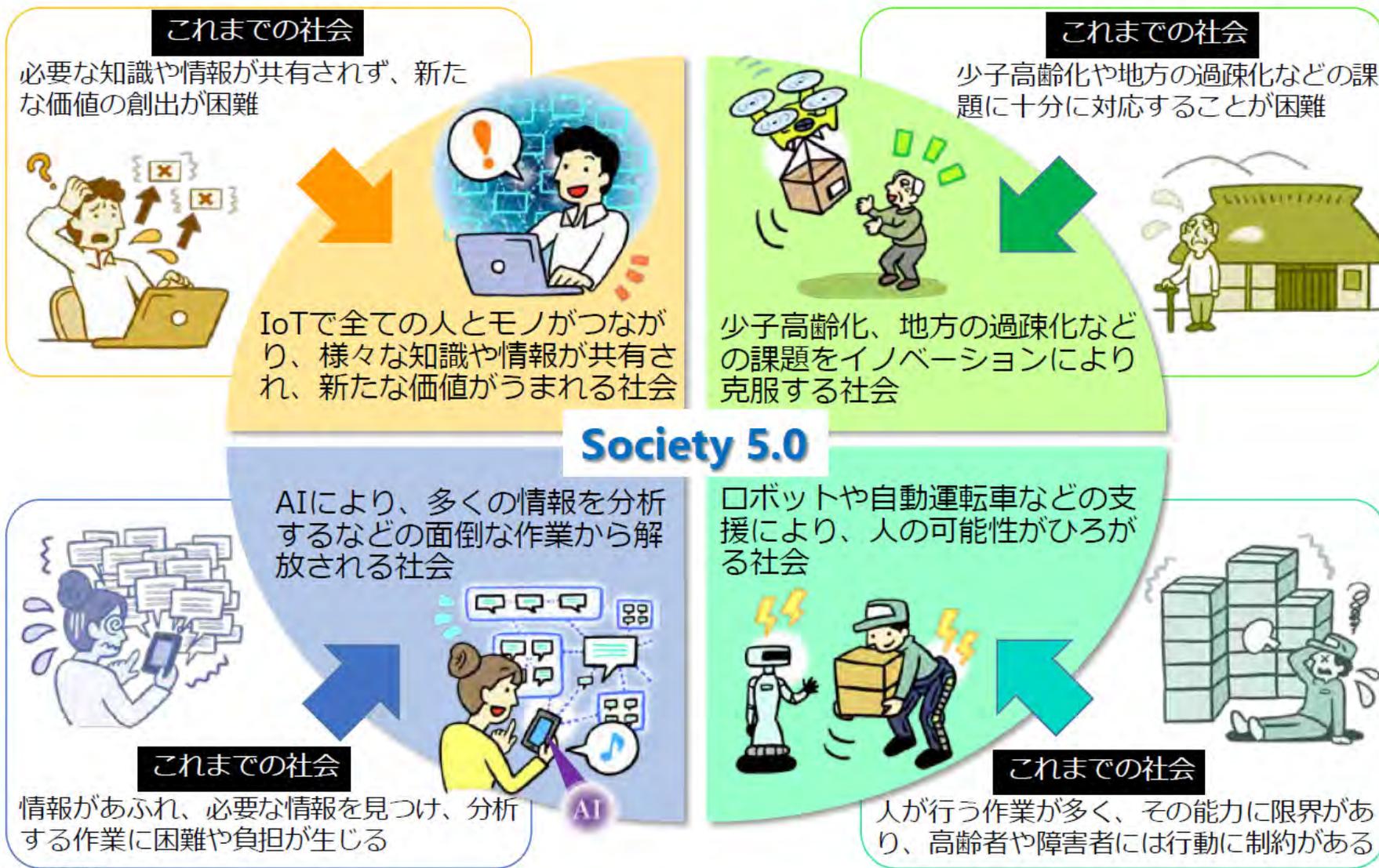
サイバー空間とフィジカル（現実）空間を高度に融合させたシステムにより、
経済発展と社会的課題の解決を両立する、
人間中心の**社会（Society）**



[内閣府作成]

1

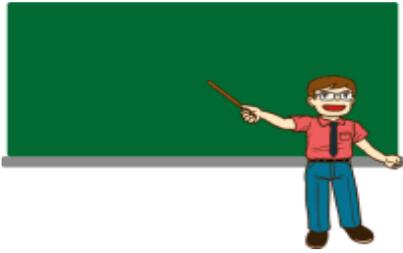
Society 5.0で実現する社会



[内閣府作成]

Society 5.0は
教育に
どのような変化を
もたらすのか

一斉一律型の授業
(イメージ)



現状と課題

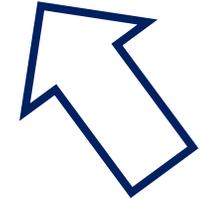
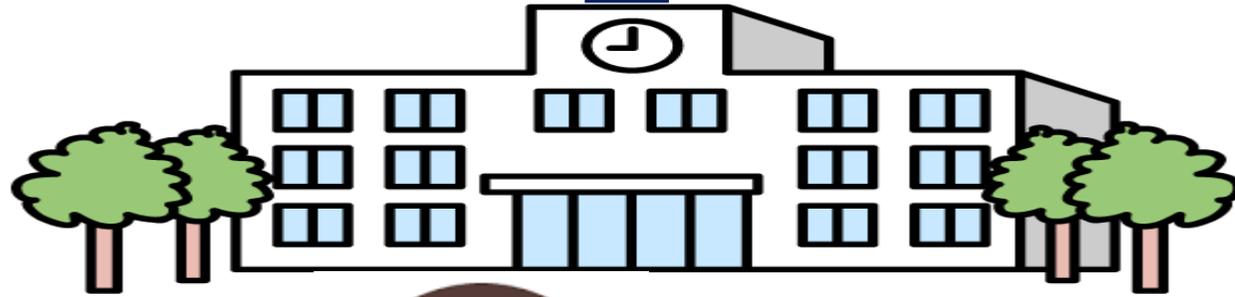
○一斉一律型の授業だけでは、個々の理解状況や能力・適性に応じた授業を行うことができない

○そのため、授業についていけず、学習意欲をなくしてしまう子どもたちや、先に進みたいのにペースを落とさなければならず、学習意欲をなくしてしまう子どもたちが出かねない

個々の学習状況や
能力・適性に応じた
授業を行うため

スタディ・ログ
(学習履歴) を活用

スタディ・ログ（学習履歴）



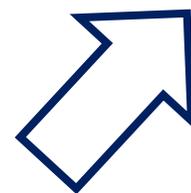
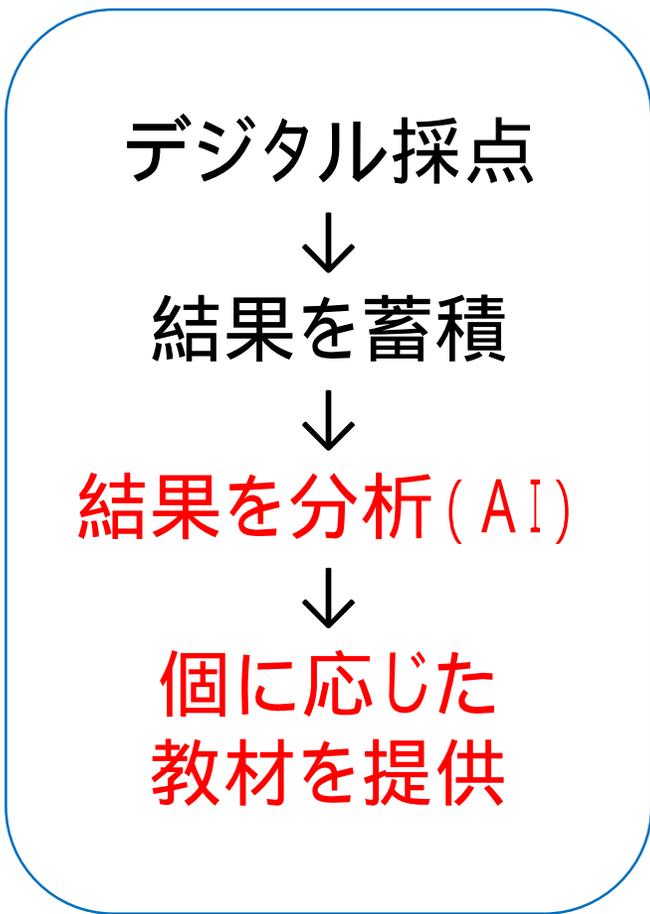
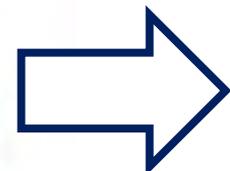
スタディ・ログ(学習履歴) の活用により

→ 個人の理解状況や
能力・適性に応じた
個別最適化された学び

スタディ・ログ（学習履歴）を
活用した学習
（イメージ）



小テストやドリルを
タブレットで実施



個々の児童生徒に応じた
きめ細やかな指導

タブレットを活用した
個別最適化された
学習(イメージ)



実現できること

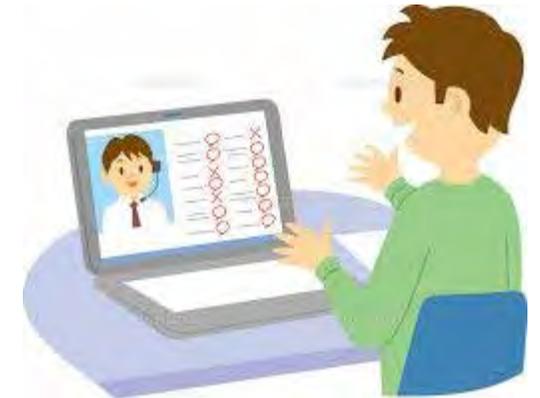
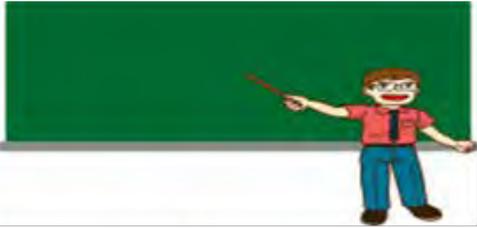
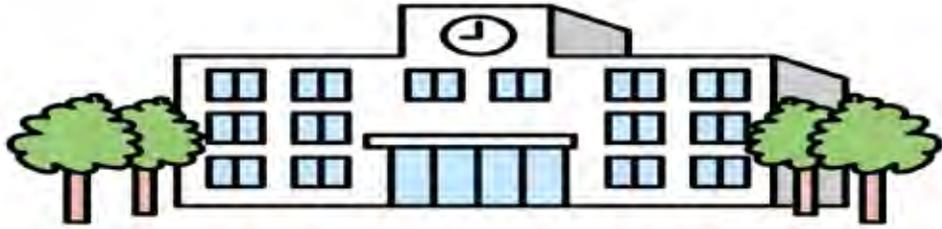
- 一斉一律型の授業と個別最適化された授業
(習熟度などに応じて柔軟に学習を進められる
授業)を組み合わせることで、すべての子どもたち
にとって学習しやすい環境の整った学校が実
現できる
- 「だれでも」「いつでも」「どこでも」主体的に学
び続けることが可能になる

場所や時間に制約されず、

「だれでも」「いつでも」
「どこでも」

主体的に学べる環境

技術革新により、多様な学びを実現



一斉一律型の授業(イメージ)

タブレットを活用した個別最適化された学習(イメージ)

タブレットを活用した自習(イメージ)

オンラインによる遠隔授業(イメージ)

教育への最新技術の導入に当たっては、リスクをコントロールしながら、その教育効果を最大限高めていけるよう、教育関係者や社会の理解を得つつ、学びの変革につながるような取組を進めていく必要がある。

☞ 技術の進展に応じた教育の革新について、

教科・学年等の概念を超えた多様な学びの在り方

教育におけるデータ利活用促進と情報セキュリティ確保の両立

外部人材の活用や教育現場と企業等の連携・協働の推進

校務の情報化などICT活用による教員の働き方改革推進

新たな学びの基盤となるICT環境の整備促進

などの観点から検討する必要がある。

公開ディスカッションのポイント

第1部

最新技術を活用した教育の現状・可能性

第2部

普及に向けた課題や阻害要因

すべての子どもたちに質の高い教育を提供